

# 反応集積化による生体機能中分子の効率合成

趣旨 近年、低分子でも高分子でもない中分子領域の化合物（分子量500-3000程度）が、高い分子認識能と特異性を有し、特定の生体分子や細胞に選択的に作用する高次生物機能分子として注目を集めています。生物活性天然物などの中分子は複雑な構造を有していますが、それらを効率的に合成することは難しく、新しい方法論の確立が強く求められています。高効率物質生産系を有機化学的に構築し、容易に高次生物機能分子を提供できれば、医学・薬学・農学等の広範な関連学術分野の強化に貢献できます。本企画は、複雑構造の有機化合物合成において、日本を代表する化学者を講師陣に迎え、中分子合成の現状と課題を議論し、今後の研究の方向性について意見交換を行います。

実施日時 3月27日（日）午前

## プログラム

- 09:30- 趣旨説明（阪大院理）深瀬 浩一
- 09:35- フラッシュケミストリーに基づく反応集積化（京大院工）  
吉田 潤一
- 10:00- フロー系による一酸化炭素の高効率導入法（阪府大院理）  
福山 高英
- 10:20- 天然物の効率合成への努力（名大院創薬科学）福山 透
- 10:45- ハイブリッド天然物に学ぶ（東工大院理工）鈴木 啓介
- 11:20- ペプチド系天然物中分子の合成・機能・活性（東大院薬）  
井上 将行
- 11:45- 天然物の骨格を多様化するアセンブリーライン合成を指して（東農工大院工）大栗 博毅
- 12:10- 細胞表面での強・弱リガンド複合化による高選択的中分子合成戦略（理研田中生体研）田中 克典